

今回のシェアタイムでは、私から自民党総裁選挙直後というタイミングで女性の活躍推進の話を提案し、他のメンバーから「感じる」と「考える」の違いへの問いかけがありました。

皆から一通りの意見が出たところで、陽子さんから皆がそこまで話しているのは意見なのか感想なのかということと、陽子さん自身が感じている喜びに比べて、皆の喜びようが薄いというコメントがありました。

「きっかけはなんだっていい、前例がなかったことをやるんだから」と、一位の記録はいつか塗り替えられるが、史上初という記録は塗り替えられないという、陽子さんが大事にしている価値観を改めて示してもらったと思っています。

「日本で初の女性総理」という、世の中が変わる節目にいるかもしれないに関わらず、「名誉男性」的なふるまいを感じていたので、私は素直に喜べなかったのです。

しかし、「どんな人でも、女性でありさえすればまずはOK」という発言から、陽子さんが常日頃から、女性の地位が向上していくにはどうすればいいかという、いわゆるジェンダー問題に意識を持ち、考えてきたことが伝わりました。

問いを選んだ私を含め、起きた出来事を起点に考え始めるという、日頃の後手に回っている思考癖を反映しているのだと思いました。

また、メンバーの中で常日頃、思考の量が多いにもかかわらず、その思考の深さが言語として見えづらいメンバーに対しても、その部分が課題であることも陽子さんから伝えていました。

言葉(と行動)でしか思考を測ることは出来ないけれど、正しいものさしを自分で持っていないと、相手の考えの深さを知ることが出来ないのだと知りました。

その意味で、私はまだ自分の周りの人が考えられているのか、いないのか正しくふるい分けられていないと思いました。

日々の記録が感情だけにとどまるのか、思考となっているのかの違いについて、自分のことについては「感情」の言葉が出てきたとき

に、「今、自分は感じているだけで思考していない」という気付きがあることを話しました。

陽子さんからは、前置きが長く伝わっていないこと、シンプルに指摘しないことで、私が役割を果たそうという思い（自覚）が足りないことを伝えてくれました。

最近のコメントでは、質問の核が見えやすいように端的に書くことを意識しています。

一つ目のセッションは、年上の後輩との接し方がテーマでした。

年上ではあるものの入社年次で後輩となる方への指導がうまくいかない理由を、クライアントは前半で仕事の成果の差を、後半で発達障害を持っている者通しだからこそ比較するのではと分析していました。

陽子さんからは「妬み」で9割説明がつくというコメントがあり、コーチとクライアントがその話にも触れていながら、軽く要素の一つとして片づけてしまっていると話がありました。

陽子さんの所属する会社の跡継ぎ問題にも触れ、男性の権力に対する嫉妬問題は、思っている以上に根深く、ないものにできないので、そこに対する意識と対処が大事ということを改めて伝えてもらったと思っています。

二つ目のセッションでは、私がコーチに指名してもらいました。

クライアントが自分の行動が過保護から来るものではないという心配から、そうではないということを確認したいという趣旨によるものだと把握したので、その部分をクライアントが納得できるのがゴールと思って進めようと思いました。

出来事が起こった翌日でもあったことから、クライアントがいつもより興奮したような感じで話していた故に、私も表情に驚きや付いていけないさが前面に出てしまいました。

そのためクライアントが、コーチに説明するような時間を作っていたので、これはクライアントの時間にならなかったと思います。

また、セッションの時間ギリギリで直球に質問を投げて終えるような形になったのも、結果的には良かったとオーディエンスの皆さんに言ってもらいましたが、結果オーライだった感覚があります。

しかし、陽子さんから**大事なのは「コーチ」の納得感ではなく、「クライアント」の納得感**であり、このパターンでは、勢いのままに流れるようなセッションも解決の一つと伝えて頂きました。

想定外のことで面食らったようなセッションにならないように、コーチは様々なパターンの経験を積んでいないといけないのだと思いました。

今回、考えるためには他の人からの質問が大事というコメントがあり、明確なコーチングセッションだけでなく、日々のやり取りも、コーチング力が上がると意識して取り組んでいきたいと思いました。

今回も、コーチングに関する気づきをたくさんありがとうございました！

(A.S 40代女性 大阪府)